

先輩ママと助産師と小児科医が創る 乳幼児親子の居場所事業報告書

『はんもっくのおうち』立ち上げを中心に



山井助成

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業



NPO 法人はんもっく

代表 福井聖子

目次

はじめに

I. 事業概要

事業の目的・方法・期間.....2

事業の結果.....3

おうちの写真.....4

II. 関係者の声

おうち参加時「今日の気分」アンケート.....6

参加者への終わりのアンケート.....7

スタッフへのアンケート.....8

参加者とスタッフの関係・参加者とスタッフの声を参考に.....10

III. 研修

研修結果と感想.....11

IV. 連携

助産師へのアンケート結果.....12

連携の意義.....13

見学者・見学者の感想・感想/意見の記述.....14

V. 課題

親や家庭の課題.....16

子育て支援策の課題.....18

当事業・当団体の課題.....19

VI. 今後および外部に向けて

今年度の成果物・発信・周知手段の参加者アンケート.....20

今後の発信の方法・今後の取り組み.....21

行政・社会と連携した子育て支援への提言.....23

おわりに

NPO法人はんもっくの他の活動

はじめに

1～2歳児の子どもの運動機能や対人関係の発達には、地域での遊び場や家族以外の人との関わりが重要であり、当団体は未就園児の親子を対象に親子遊び中心に子育て支援のボランティア活動を行ってきた。2013年法人化当初、図1に示すように親子の小グループによるお互い様の循環型子育て支援を目指して、子育てサークル支援と地域おやこクラブを開催、さらに0～3歳までの流れを作ろうと0歳児親子対象の赤ちゃん広場「リンクル」を開催してきた。しかし、対面の人との出会いに抵抗感を持つ母親が増加し、SNSやネット検索が普及、0～1歳児でも働く母親が増加して、地域で親同士つながることの必要性が理解されにくくなり、子育てサークルは少なく、地域おやこクラブや赤ちゃん広場の参加者は減少した。一方、母親の就労により孤立や育児の抱え込みは解消されるが、「親は入園までの衣食住排泄の世話係」といった風潮も感じられるようになり、お金と手間がかかり結果の見えない子育てへの評価は過去より低くなった印象がある。産後うつや妊産婦の死因第1位が自殺である背景には、子育てが楽しく誇りを持てる状況ではない現状があると考えられる。

子どもの発達面においても、近年1～2歳児の発達が過去の標準より遅いという指摘がある。当団体では体育館遊びを市内2箇所で開催しているが、低年齢の幼児がしっかり体を動かして遊ぶ機会が少ないためか、体験を通じて急に動きが良くなる子どもも多い。幼児期には、室内で大人とマンツーマンで過ごすだけでは育つ環境として不十分であり、親が子どもを連れて出てきやすい状況を作る必要性を感じている。自我が発達し、子ども同士のもめごとが増える幼児期の前の0歳児の時期から、地域につながることは核家族下の子育てにとって必要な支援策と考えられる。

地域での活動を通じて知り合った助産師との話し合いで、産前産後から0歳児の段階で支援を行うこととなり、市の産後ケア事業への参画を検討したが、時間帯の基準や受益者負担、参加者が市役所で申請するなど、参加へのハードルが高と考えられ、独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業の令和2年度助成（WAM助成）を受け、本事業を行うこととなった。コロナ禍の影響で実施開始が遅れたが、開催後に様々な課題が見え、本事業の有用性を検討したので、報告する。

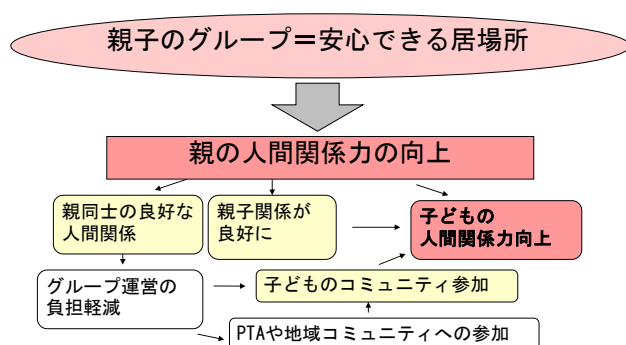


図1. 循環型相互子育て支援：親子グループの効果

I. 事業概要

【事業の目的】

1. 0～3歳の子育ての重要性の理解を図り、実践的体験の場と機会を創る
2. 子育てを楽しみながら手間暇をかける創造的な営みとして、誇りを持つことができるように支援する
3. 産後ケア事業をより良い形にするための実践モデルを創る

【事業の方法】

箕面市内の戸建住宅を支援の場として「家庭的環境」を作り、産後の親子の支援を行った。住宅は「はんもっくのおうち」（以下おうち）と名称を付け、時間枠や対象を限定しない無料オープンスペースと有料の子育て講座や相談などを提供し、ネットなどからの簡単な予約のみで参加可能とした（図2）。助産師は週3日常駐、小児科医の相談は適宜行った。スタッフは、研修を行い、アルバイト待遇と有償ボランティアとした。

おうち開始に先立ち、オンラインで相談を受け付けた。開始後はテーマトークの日を設け助産師滞在中は随時相談受け付け可とした。

おうち以外に、子育て広場リンクルを市内2箇所ですべて各月1回ずつ開催した。大阪府立箕面東高校において乳幼児の親子と高校生の触れ合い授業も計画していたが、緊急事態宣言などを受け、年間2回の開催に留まった。

【事業の期間】

当初9月開始予定であったが、コロナ感染対策による小中学校休校の影響でスタッフが集まることができず準備が遅れ、10月6日（火）におうちでの活動を開始した。9月中は週2日オンライン相談、10月以後は週1回（月3回）オンラインでテーマトークと随時相談受付とした。年末年始は12月26日～1月6日まで休みとし、今年度は3月26日（金）まで開催予定である。

研修は、遠方からの外部講師招聘を取りやめ、内部講師と箕面市内の作業療法士に依頼して行った。

はんもっくのおうちとは

安心して子育てするためには、ママがリラックスできること・その人なりの赤ちゃんの関わり方がわかること・家族以外の人の応援があることが大事です。
専門家と先輩ママで創る、0歳～よちよち歩きの子とママ、きょうだいもいっしょに、過ごすおうちを目指しています。

開催概要

開催日	火曜～金曜（祝日除く）
時間	10時～12時、13時～15時
オープンスペース	定員5組 出入り自由 要申込 無料
企画	お楽しみ企画・学び企画 要申込 有料

場所のご案内

箕面市今宮3丁目28-1

阪急バス 58・70・78
バス停：今宮3丁目または箕面東高校公園南

駐車場：駅前

お問い合わせ
TEL:072-703-4588（火～金10～15時）
HP はんもっく箕面→検索で
Email: hammock_minoh24@yahoo.co.jp



ママと赤ちゃんのための
はんもっくのおうち



主催：NPO法人はんもっく
令和2年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

おうちのパンフレット表紙

日 月	火	水	木	金	土
AM 10:00 ~ 12:00	・オープンスペース 10:00~12:00	・オープンスペース 10:00~12:00	・オープンスペース 10:00~12:00	・オープンスペース 10:00~12:00	お休み
	・ヨガ(月2回) 10:15~11:00		・子育て教室 コアラ組 (5~8か月児) 11:00~11:30	・子育て教室 パンダ組 (9~12か月児) 11:00~11:30	
	・子育て教室りす組 (~4か月児)(月2回) 10:30~11:00				
	・WEBトーク 11:00~11:30				
PM 13:00 ~ 15:00	・オープンスペース 13:00~15:00	・オープンスペース 13:00~15:00	・オープンスペース 13:00~15:00	・オープンスペース 13:00~15:00	

↑当初プログラム

→オンライン案内

【事業の結果】

表1に示すように、おうちは10月開始後週4日午前2時間・午後2時間をオープンスペースとして開催し、並行して講座等を行った。

スタッフは会場設営や感染対策、運営経験などを目的に最低3人を確保した。参加者数は、1月以後増加した(表1)。

表1. 開催日数と関わった人数

	月	日数	時間数	スタッフのべ人数	助産師のべ人数	参加者数(組数)
おうち	9月 (WEB)	7			7	2
	10月	16	64	49	13	18
	11月	15	60	60	13	25
	12月	16	64	71	16	19
	1月	15	60	60	15	38
	2月	14	56	51	14	54
リンクル	9月	2	2	6		18
	10月	2	2	6		20
	11月	2	2	6		3
	12月	2	2	7		5
	1月	2	2	7		4
	2月	2	2	9		7

図1に示したように、12月まではイベントで参加者が多い日を除くと1日の参加者は0~1組の日が多かったが、1月以後は連日のように参加があり、参加者数も増加した。

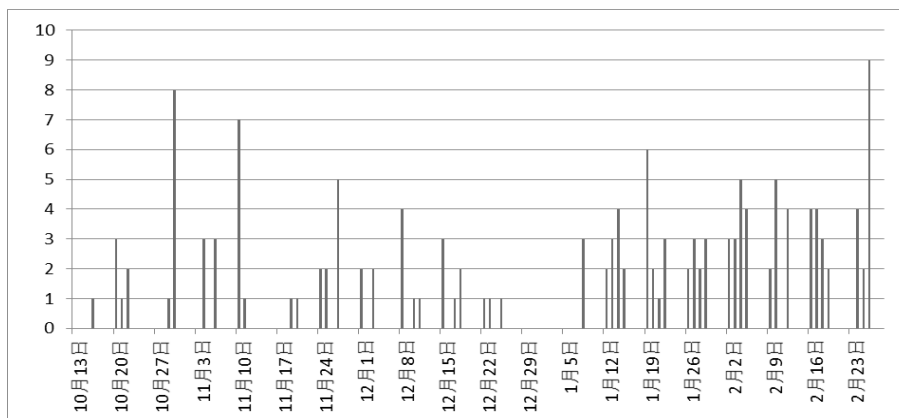


図1. おうち参加者数の推移

赤ちゃん広場リンクル(以下、リンクル)は、市内2箇所各1時間、内容は赤ちゃん体操とベビーマッサージを交互に行った。9~10月は他の広場などが休止していたため、参加者が多かったが、11月以後は減少した(表1)。

おうちの外観と開催風景



建物入口と敷地入口の看板

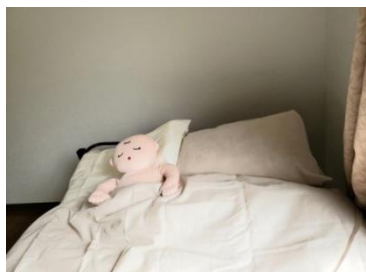


←その日の案内

玄関の案内ボードと飾り



↓2階：母の昼寝用ベッド



ホームページの駐車場案内↓

ホームページから予約状況・駐車場の空き状況が見られる



室内の飾り付けと参加者の様子



↑ Xmas 飾り付け

奥の部屋のソファと
ベビーベッドも
Xmas の雰囲気



↑ 参加者同士の会話
触れ合いタイム→



↓ ママのヨガ



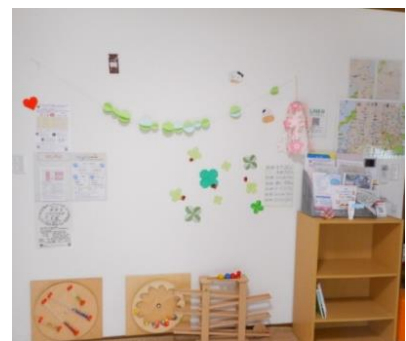
↑ きょうだいも遊べる



壁面は Xmas→お正月→お花の季節



広い壁面も、お正月→春に
壁のおもちゃ：楽しく回す動作ができる



Ⅱ. 関係者の声

【おうち参加時「今日の気分」のアンケート】

参加者に最初に次のようなアンケートを行った。「スタッフの参考に今日の気分を教えてください。スタッフの対応も大きくは変わりませんが、人それぞれ、その日によって、気分は違うので、あと一歩出るか引くかの参考に」 ○は各Qの選択肢である。各項目の集計結果を示す。

1. おしゃべりしたい



1月・2月とリピーターが増えた結果か、気軽に参加される方が多くなった結果、「どちらでも」が増加したのではないかと考えている。

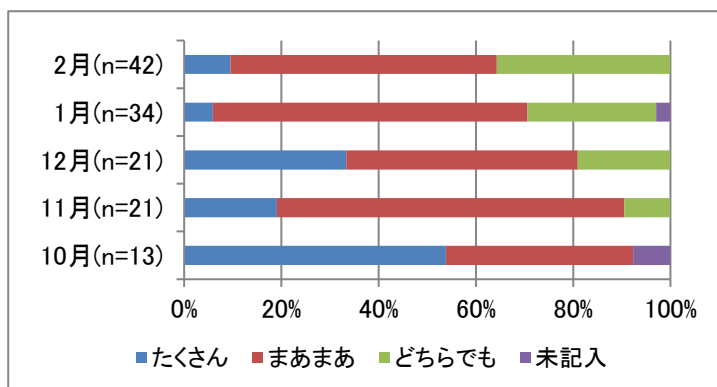


図 2. 「おしゃべり」の希望月別推移

2. 相談・学び・情報



Q1と同様の傾向で、参加初期は何かを求めて来られ、回を重ねるに従い、「過ごす」ことを目的に参加されるのではないかと感じている。

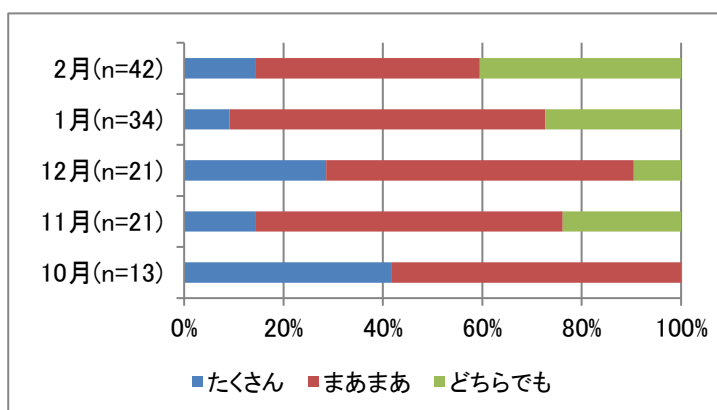


図 3. 「相談・学び・情報」の希望月別推移

3. 子どもと離れる



1月2月は「あまり」「ずっと一緒」が少なく、子どもが数か月のうちに成長し、人や場所に慣れて親と離れることに不安感が減ったのではないかと考えている。

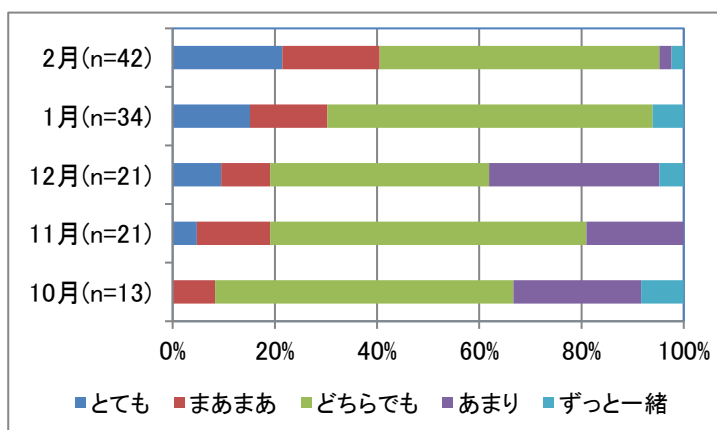


図 4. 「子どもと離れる」の希望月別推移

【参加者への終わりのアンケート結果】

Q. 今日は楽しかったですか？（図5）

「あまり楽しくなかった」は0で、
1・2月は「とても楽しかった」が増加した。

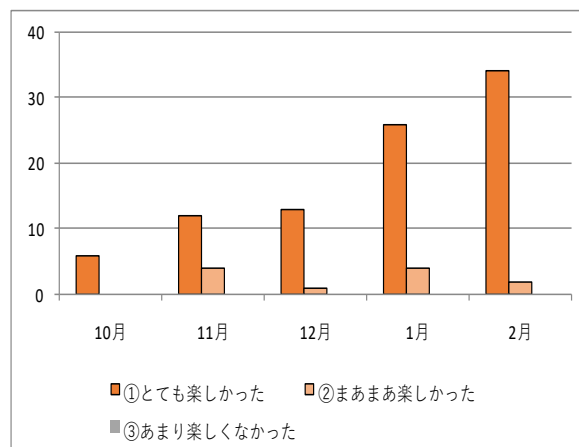


図5. Q2の月別回答数

Q3. 今後行ってほしいことや気になったことなど、何かご意見は？（記述：主なもの）

- *子どもといつも2人なので大人と話せてスッキリしました。
 - *体調がよくなかったので子どもがたくさん遊んでもらえてよかったです
 - *意外に近かったので良かった。親切にありがとうございます。
 - *こういう場所があるのが助かります！（ご主人とお子さんと来られました）
 - *色々相談の話させてもらってよかったです
 - *色々な情報交換できてとても楽しかったです！
 - *絵本や手遊び、季節の行事。楽しかったです。
 - *たくさん質問に答えていただきありがとうございます
 - *たくさんのふれあいがあり、たのしかった。毎週きたい。
 - *（おっぱいマッサージ施術あり）とても楽になりました。
 - *（ヨガ参加）ヨガとてもよかったです！スッキリしました！
 - *離乳食の話が聞けて助かりました
 - *家にはないおもちゃで遊んでもらえるので楽しいです。
 - *少し年齢の大きい子がいてとても楽しそうにしていました。
 - *たくさん友達とあそべる機会があってうれしいです
 - *息子が楽しそうに遊んでいたのがうれしい。
 - *親身になってくれるスタッフさんがよい
 - *また来ます 7
 - *ありがとうございました 6
 - *楽しかった 6
- 希望：古着交換・手遊びを教えてほしい・一時預かり 2・絵本がもう少しほしい等
他に参加：ベビーマッサージ・歩けるようになったので他の遊び企画に参加したい等

【スタッフへのアンケート】

令和3年2月末にアンケートを行ない、主なスタッフ13名から回答を得た。

Q1.この活動についての満足度

とても満足8（62%）、満足5（38%）、やや不満足・不満足0であった。

Q2.満足の理由（記述）

記載内容を分類すると満足の理由として最も多かったのは、「参加者との交流」に関する事で、その他様々な声があった。

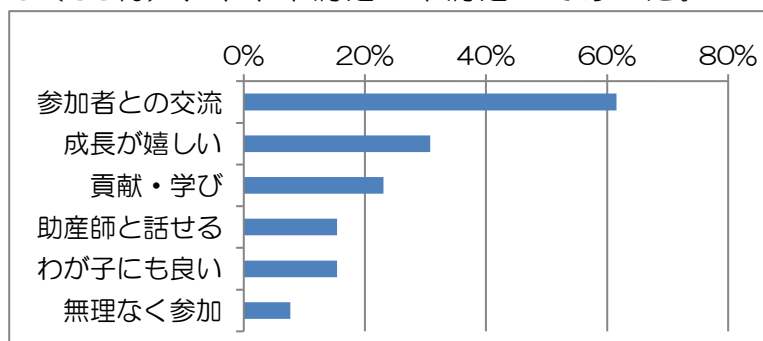


図.9 満足の理由

以下、記載内容を示す。

- *赤ちゃんたちから可愛い癒しをもらえ、日々の成長を見れて、懐かしく楽しい気分になります。
- *いろいろな月齢のお子さんと関わって楽しいです。*参加者さんとのふれ合いは、ゆったりした雰囲気を楽しんでいます。助産師さんと話す事も多く勉強になります。
- *いろいろな方々と交流できて楽しい。*多くの低月齢のお子さんに関わる中で個性を感じたり、お母さんによって気になっている事や考え方などを聞いて、自分の時はこうだったなと思ったり、そんな考え方もあるんだなと感ずることができたので
- *ターゲットをしぼり、リフレッシュできないママ達の安らぎの場所に携われるうえに、自分自身もゆっくり育児の困りごとを相談できる場になっています。
- *こどもたちがかわいくていやされる。ママパパさん方と色々な話ができ楽しい。出産のお話をきく機会はふれあい授業でありましたが、授乳、卒乳、離乳食など色々な方のお話をきき、私は比較的問題なくやってきたんだなあと気づきました。
- *コロナ禍という、なかなか外出する事に戸惑う地域の子育てママさんたちの手助けになっている事を実感した時。*満足の理由はリピーターが多いこと。「とても満足」にならなかったのは、利用者数がもう少し増えてほしいから。
- *公共の施設を借りて親子を迎える以上に、ようこそゆっくりしてってね、という気持ちになります。おうちという空間(しかも今風の白っぽいフローリングのおしゃれな家というより、懐かしい感じ)で、より温かさを感じます。"
- *3歳の子連れスタッフです。コロナでほぼ無くなってしまった同年代や異年齢の子どもたちや、親以外の大人との関わりの場を与えていただき、就園前の大切な一年に娘とここで過ごせたことに心より感謝しております。
- *来てくれた方とゆっくりお話が出来て、そして、一緒に行っている子どもも楽しく遊ばせて頂いているので、ありがたいです。
- *①あまり肩に力を入れずにスタッフ業務をこなせるのが良い ②自分の都合に合わせてシフトに入れてもらえて、都合が悪くなくても気軽に交代を頼めて気楽
- *助産師さんとお話することで得ることが多く、勉強になっています。

Q3.やりがいや楽しさを感じたことはどのようなことですか？（記述）

子どもの成長とママの喜び・リラックスの2つに評価が高かった。また、ママとの共有・共感、自分やわが子の成長、交流など「自分事」としての受け止めている様子も、見受けられた。

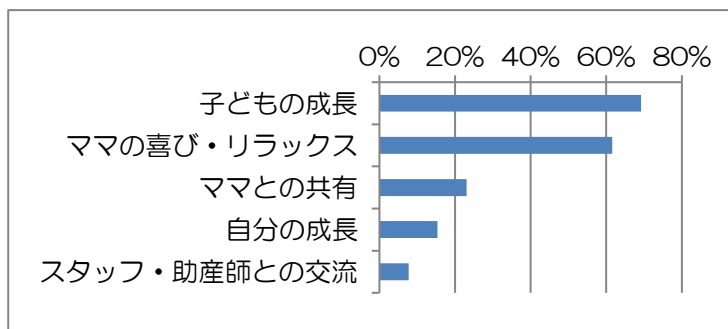


図 7.やりがいや楽しさの理由

下記に記述内容を示す。

- * 来るごとに馴染んで、できる事が増えていく姿が嬉しいです。* 何度か来てくれたお子さんが立てるようになったり、寝返りができるようになるなど成長を見ることができた
- * おうちに来てくれたベビーたちが、普段自宅では見せない「動き」「表情」「感情」をした時、ママはベビーの”成長”を感じ、とても驚いています（感動という意味）。ベビーの1つ1つの成長を私達スタッフも見守る事ができるのはとてもやりがいを感じます。
- * 最初暗い雰囲気であられた方が、リピーターになり、何度も来て下さるうちに笑顔がふえたこと。泣いていた子どもも場所とスタッフに慣れて、移動範囲も広くなったり、自分でおもちゃを出すようになったりして、成長が目に見えてわかること。
- * 日々成長されるお子さんの変化を親御さんと感じる事ができるのがうれしく楽しいです。
- * 家でぐずっていてもはんもくに来ると機嫌よく遊んでくれるので来る回数が増えましたと言われたのが嬉しかった。少しでも育児のお役に立てているのなら嬉しいしやりがいも感じます。
- * ①自分の子は既に過ぎてしまった小さな子の様子に癒される ②親子で何度も通って来てくれるうちにお母さんの笑顔が増えたり、赤ちゃんの発達や成長が見られると嬉しい ③今までのはんもくくの活動であまり接点のなかったスタッフの人たちとも交流が持てたり、助産師さんから色々と参考になる話を聞いたりして知識の幅が広がった”
- * お母さんたちが、不安や迷いを持ちつつ、ここへ来られ、通われることで、表情や、気持ちの変化が良いように変わっていく様子が見れたり、言ってくれたりすること
- * 利用した人が、楽しかった！また来ます！と言ってくれたことがとても嬉しかったです。
- * 自分自身も試行錯誤しながらの育児だったので私の体験が参考になればと思います。その頃を思い出す事で自分も子供も成長したことを感じる。
- * お母さんがリラックスしてくれて子育て以外のことでもお話をして笑顔で帰って行かれる姿を見た時 * 何度も気軽に来てくれる方にたくさんお会いできた時”
- * お話が盛り上がり、お子さんが楽しそうに遊んでいるのを見ると嬉しいです。
- * 水曜日は自分の子と同じくらい子どもたちが多いため、一人ひとりが本当にそれぞれで、見てだけでも面白いです。
- * 自分の育児の経験でママさんのお話を聞いたときに心から共感できること
- * 娘が自分より小さい子におもちゃを渡していたり、お世話をやいている姿を目にした際、その関わりが微笑ましく、喜びを感じました。

Ⅲ. 研修

今年度のスタッフへの研修は以下の通りである。また、助産師対象の勉強会も行った。

表 2. 研修内容一覧

対象	月日	研修内容	講師	資格・職歴	人数
スタッフ	9月29日	事前研修・マニュアル確認	福井聖子	代表・小児科医	8
	10月1日	事前研修・マニュアル確認	福井聖子	代表・小児科医	8
	11月16日	初対面の人との出会いで配慮すること	阪口晴美	元 USJ 接客指導者	14
	11月30日	幼児の接し方	福井聖子	代表・小児科医	15
	12月7日	運動と手の動きの発達・遊び	芳本由里子	作業療法士	12
助産師	1月28日	子どもの病気への対応	福井聖子	代表・小児科医	4

研修の満足度 とても満足 6 満足 7 やや不満足・不満足 0

*いつも、為になる話をさせていただき、勉強会を楽しみにしています。

*領きや、目線一つで話し相手に感じさせる印象が全く違うということにとっても共感しました。

いつもすごく話しやすいな～と私自身が思っていたのは、そういう事だったんだなと納得でした。

人見知りの自分ですが、ほんの少しのことで変えられると知ったので、心がけるようにしよう！

と思えました。”*①おうちのスタッフにならなければまず普通なら聞けないような話が聞けて良かった②研修を受けることで、おうちの意義やスタッフとしてどう取り組んで行けば良いか理解が深まった。 *とても為になるお話でした。また講座をお願いします。

*今まで意識していなかった事を知識として教えてもらえて良かったです。もっと聞きたいので、満足です。 *研修会で学習したことを参加者さんへ実践やお話を伝えられたらと思います。

*全てに参加はできなかったのですが、おうちスタッフとして共通の認識が持てたり、専門性のあるお話が聞けて赤ちゃんと接する時の知識を得ることができたので

*普段、聞けない情報を得られたり、我が子たちがある程度成長してしまうと忘れがちな対応の仕方なども、今一度確認できたので良かったです。

例) ・ほめて伸ばす！ ・他と比べるのではなく、その子の個性を見てあげる！

・こどもはうるさいのが普通！”

*普段の活動では漠然と感じていたことなどが、話を聞いて整理されるように思ったので。今日のアレルギー講演も充実していて良かったです。実際のママさんたちの質疑応答が、具体的な事例として、聴いているほうにもとても参考になりました。

*研修会で知らなかったことを知ることが出来、実践でも生かしているので受けさせて頂き、良かったです。 *どれも興味深く、もっとみんなと話し合う時間が欲しかったです。今は長い時間一緒に空間にいられないので仕方ないですが……

*専門的な知識を教わるととても勉強になりました。知識をもって子供に関われることは親の心持ちもまた違ってくるのでよりよいと感じました。

*改めて確認することや新しい気づきもあるので良かったです。研修は定期的にあるといいと思います。

IV. 連携

専門職と地域ボランティアスタッフの連携は、良い効果を上げている。助産師からの意見を参考に、連携の役割分担について考えた。

【助産師へのアンケート結果】 n=4

1. はんもっくのおうちの活動について とても満足 1・満足 3

- *今のところ参加者の少ないことが残念ですが、「おうち」という取り組みは素晴らしいと思います。ちょっと不安げで表情の硬かったママが子と一緒に笑顔になっていく姿が見られてやりがいを感じています。
- *今まで外出することや、ママ友をつくることなどが苦手だったり、必要性を感じていない方々の居場所として最適と感じます。少人数でゆっくりと関われるのも良いです。
- *たくさんの子育て中の親子にはんもっくのおうちの紹介をしていきたいです。広報活動に力を入れていく必要性を感じています。
- *はんもっくをもっとたくさんママ達に知っていただけたらと思っています

2. スタッフとの連携について とても満足 3・満足 1

- *素敵なスタッフに囲まれ、大変満足しています、前向きに勉強熱心で見習いたいと思います。クライアントさんへの優しい言葉かけや態度に安心感があり信頼できるスタッフばかりだと思います。
- *スタッフのみなさんから学ぶことはたくさんあります。たまにしか行けないですが、スタッフさんがたくさん教えてくださるので安心です。
- *スタッフの方同志の連携がうまくできていて、その中にうまく入れてもらって感謝しています。又、オープンスペースでは助産師の対応が必要かどうかの見極めもしっかり判断してもらえるので、とてもやりやすいです。
- *多才な方々が来た人を丸ごと受けとめて話を聞いておられ、専門職の教えたがる私にとって、とても勉強になります。のんびりゆったりとした雰囲気を手早く作ってくださるのはすごいです。

3. 小児科医との連携について とても満足 3・満足 1

- *ママからの質問に助産師として答えられるのはママの身体や精神面、新生児～乳児期の早期に限られ、それ以外のことは経験による回答などになっていたが発達などは特に根拠をもってお話いただけとても安心です。私自身の勉強になり、それをママに返すこともできてとても良いです。
- *いつでも相談にのっていただき、すぐにクライアントさんに対応できるので安心です。助産師としても知らないことを教えてもらい大変満足です。
- *色々教えていただけて嬉しいです。身近に小児科の医師がいると助産師もママ達も心強いです。
- *今まで関わった育児サロンや育児相談会では保健師助産師のみで運営していたので、相談内容によってはその場で助言できないことが結構ありました。小児科医の存在はとても安心できます。3月から発達相談で一緒できるので大変楽しみです。

【連携の意義】

助産師の仕事は産前・産後の母子の健康が主な目的であり、母体の心身のケアや新生児のケアに専門性を発揮する。他の職種や素人では対応できない貴重な知識や手技を持ち、授乳相談を希望する母も多い。

新生児期を過ぎ乳児期になると、相談内容は発達・離乳食・予防接種・事故防止・病気への備えなどに変化し、小児科領域の知識が必要になる。乳児期の発達には特定の安心できる人からの言葉かけや遊びが重要であり、発達の伸びを認める目と大人の動作が発達を促す。乳幼児に関わった経験がない親に対し、言葉を持たない子どもに言葉をかけ手間をかけることの意義を伝えることも今の小児科医の役割であろう。

助産師や小児科医は医療の専門職であり、物事の捉え方や親子への関わり方は指導的になりがちであるが、親は一人の大人として尊重されるべきであり、子育ての大変さと重要性を理解して支える役割が求められる。専門性に特化するため多様性から遠ざかるが、個別に生活のインフラ整備のような役割を果たしていると考えられる。

子どものいる暮らしを営むためには、親として自分なりに努力することが必要になる。独りよがりにならずに自分を保つには、人から共感を得て支えられ、他人との意見の違いを受け入れて視野を広げることが重要である。これらを支えるには安心して語れる地域の人の存在が欠かせない。従来型の地域コミュニティが十分機能していないなか、他人との関わりを避けたがる母もいるので、先輩であるスタッフとの交流により、地域の人とコミュニケーションを取ることの良さを感じてもらいたい。

産後すぐの時期は母体も子どもも心身ともに不安定で、医療職の支えが安心感につながり、次第に生活の中での継続的で多様な支援が必要となる。専門職と地域活動が連携した取り組みは、個々の親がその時々に必要な支援を得るのに適していると考えられた。

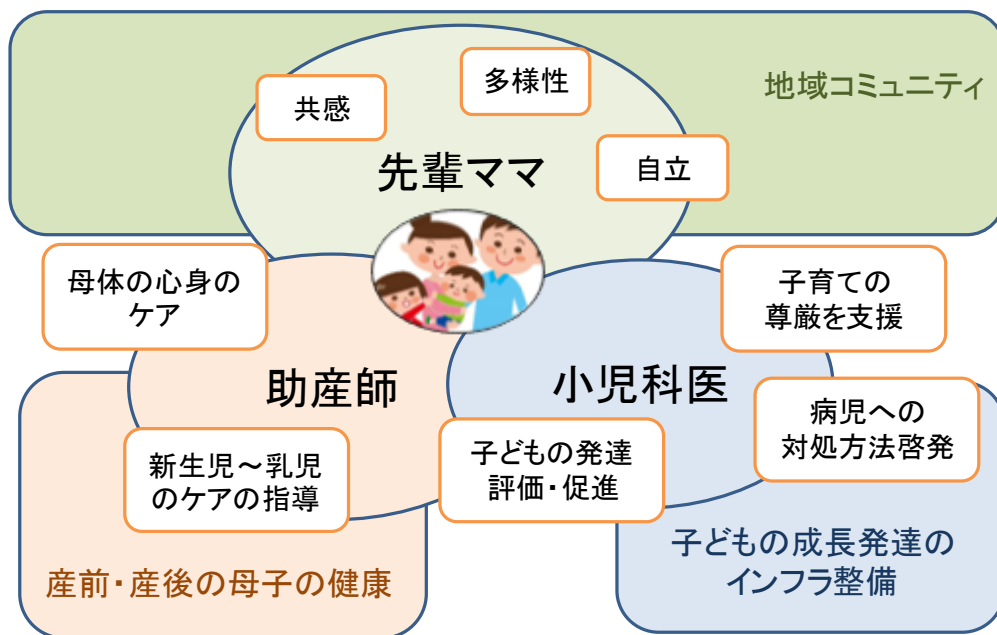


図 9. 専門職と先輩ママの連携の形

【見学者】

今後の連携に向けて、様々な分野の人に見学を呼びかけた。

表3. 2020年度の見学者概要

領域	人数	職種詳細・肩書き等
市議会議員	9	維新の会・公明党・箕政会・共産党・無所属
行政	6	箕面市子ども部・保健師
地元地域団体	4	自治会・地区福祉会・民生児童委員
社会福祉協議会・市民活動センター	3	社協会長・地域担当者・センター理事長
医療系	4	地元小児科医・大阪市役所小児科医・大学講師・作業療法士

【見学者の感想】

見学者の意見・感想を
まとめた。
意見感想に励まされると案内・情報提供したい
共に、今後の連携の
可能性を感じた。

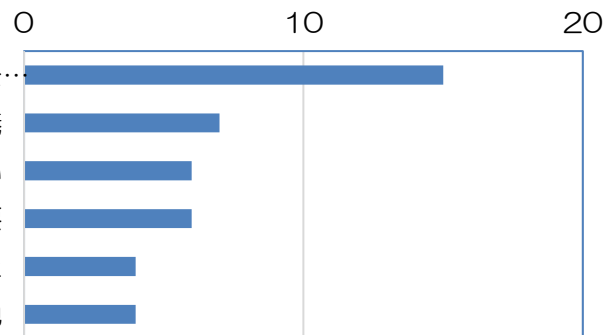


図10. 見学者の意見感想の主な内容

【感想・意見の記述】

- * 明るいやさしいお部屋の雰囲気がよかったです。子育てに悩んでおられる人が利用できるのも、よい家だなあと感じています。
- * 安心して母親が子育て出来る場所と思います。多くの親子が来てくれる様になればと思います。あたたかい「はんもっくのおうち」でした。
- * 新米ママの不安な精神状態などをやさしく指導されるのでとっても楽しみにしています。
- * 地域にこのような施設ができてうれしく思いました。ありがとうございました。
- * 0～1才児を持つ保護者が利用できる拠点が出来て、親の視点で安心できる場ができたと思う。地域だけでなく市内からも利用が増え、こういう拠点の必要性が広がるといいと思います。
- * ほっこり、ほのぼのして、居心地が良く、しんどいときの相談先になれると感じました。さまざまな背景の方々との協力により、有意義な取組みを期待いたします。
- * 広くて、ママとお子さんにとって、とても居心地のよい場所だと思いました。ママとお子さんがとても安心して遊べる所だと思いますし、Dr や助産師さん、先輩ママさんがいらっしゃってゆっくりと相談にのってもらえるのは、とても心強いと感じました。
- * 0～1才の子育て世代への大きな存在になっていくことと感じました。
- * 1人めの子育ての時に毎日行くところを探していたので、近くにこんな場所ができたママたちは幸せだと思います。いろんなところで宣伝させていただきたいと思います！

*母の気持ちに寄りそい、様々な工夫やイベントを企画されていると感じました。初めて利用する時やコロナの影響で参加しにくい母に、具体的にご案内できるため、本日見学させていただけてよかったです。このようなサービスはなかなかないため、情報提供していこうと思います。

*お母さんたちのホッとできる場所という印象でした。交流、相談、休息と様々なサービス内容があり、今後新生児訪問で紹介していけたらと思います。今後ともよろしく願います。

*開放的な部屋がゆっくりとすごせる空間と感じました。相談や手技など安心して子育てができるように支援してくださるところであることがわかったので、是非必要な市民さんにご紹介したいと思います。貴重な時間を頂きましてありがとうございます。

*産後のママがゆっくり休んで、相談できる感じがしました。知らない方もまだまだいらっしゃると思うので、紹介していけたらと思います。今日はありがとうございました。

*妊産婦・赤ちゃんが過ごしやすい雰囲気だと思いました。計測、お昼寝、沐浴を希望する事はよく耳にするので、1度利用されると次回以降も利用されそうですね

*アットホームな感じ、周りの環境も良く、お母さん方が安心して過ごせる場所と感じました。コロナ禍の中、悩んでいるお母さん方への周知についてが課題。今後もしっかり続けていって欲しい。

*おかあさんが楽しい子育てできるようになれたらいいな。そう思えるのは子どもが大きくなってからかもしれないけど、そう思ってもらえるために今できることを今日のお話をきいて、また考えていきたいと思います。今日はありがとうございました。

*子どもが遊べるおもちゃが色々あって、使用後は消毒するなど感染対策もされており安心。入室時のアンケートでスタッフとの関わり方や子どもとの関わり方を伝えられるのが口頭で言わずに済むのでよいと思った。子どもと離れて別室でねられる環境は寝不足の人にとってとてもいいと思う

*0・1才の子育ての大切さを感じていますので、こういう安心して相談、あそびができる所は貴重です。また、よろしく願います。

*Dr. というのもっと特徴として打ち出しすれば良いかと思いました。とっても家庭的な雰囲気よかったです。

*今の子育て、特に乳児に関わる問題を母と子の様子から聞かせてもらい、子どもや妊産婦さんを見る目がかわりそう、ここの存在を知らせてくなりました。

*大変なお母さんを見つけること、また、つなげていくことが大事、行政との連携が必要だということも改めて認識しました。

*0~1才の子育て世代の今の状況がよくわかりました。地域で子育て応援のつながりがひろがればいいですね。

*幅広く多くの子育て世代に知ってもらい、いろんな情報を肌で感じてもらうことが大事と感じた。

*広く「はんもっく」の事を知ってもらう必要があると思いました。親と地域をつなぐかけはしになる事を期待しています。

*今の子育て世代の現状がわかり大変勉強になりました。今後のまちづくりの参考になりました。

V. 課題

【親や家庭の課題】

オンラインの活用は7月～3月までで計14名（うち児童館経由4名）のべ25名で複数回利用者5名、1回のみ9名であった。相談内容は、睡眠・夜泣き:6、離乳食:6、予防接種:5、発達:4、感染症・対策:3、授乳:3、入浴:3、便:3、きょうだい・動き対策・保育所・その他ケア・事故防止・湿疹各1であったが、質問や会話の内容から背景にある課題を感じた。オンラインでは個別に質問の背景を聞くことができ、また本音も出しやすい印象がある。おうち参加者にも感じる共通の課題について述べる。

☆孤立

物理的孤立

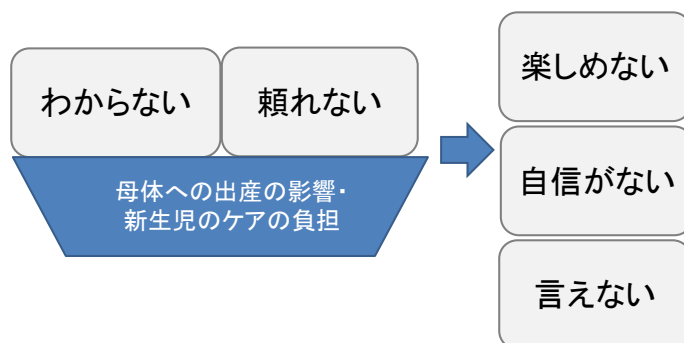
産科の多くが個室入院で退院までの日数も少なく、他の母との会話や育児の様子を見る機会がほとんどないようである。祖父母が就労中で忙しく、住宅構造も産後の母子を受け入れる余裕のない実家も増えた。さらにコロナ感染対策のため、立ち会い出産や面会の禁止に始まり、退院後も産科施設が集いの機会や授乳相談外来を休止している。祖父母が高齢の場合、里帰りできなかつたなど、若い親世代のみで新生児を育てる状況となった家庭も多いことが実感として伝わってきた。

生後1か月を過ぎてもコロナ感染を恐れ外出できない例もあり、出かけようとしても、子育て支援センターの人数制限や地域の子育てサロン閉鎖などの影響で、同じ立場の親同士の出会いの機会は激減した。新生児訪問や赤ちゃん訪問は日常的な育児の支援とはなり得ず、地域でのつながりが無い親子は自然に孤立するのが現状である。

父親が在宅勤務となり、協力して子育てできた家庭もあるが、育児に積極的に関わろうとしない父親もいて2極化している印象がある。父子の参加例から、父子が気軽に参加できる居場所も少ないことに気づいた。

心理的孤立

最初は表情の硬かった参加者が回を重ねるに従い、母子ともにリラックスしてきて、数回目に「ずっと子どもと2人家にいて、しんどかった」と漏らし、その後家庭の愚痴なども話すようになった。特別なリスク要因がない場合でも、親が頑張るしかない状況下で、弱音や本音を訴えられずに抱え込んでいる状況が推察された。



出産直後～新生児期は、母子ともに大きな変化に順応する時期である。この状態で子育て経験の乏しい親が頑張ろうとしても、子どもの様子やケアの方法もよくわからず、頼る人がいなければ、子育てを楽しむことも自信や誇りを持つことも難しい。

図 11.産後の母の子育てに関する状況

☆リアルな体験よりも情報優先

情報が豊富なため、祖母に話を聞いても納得できない場合や祖母も自信を持って話せなくなった印象が強い。寄せられた質問からは、自分で決めることと助言が必要なことが混在している印象を受ける。様々な情報が溢れるなか、体験上の悩みが深刻化せず、検索しても取舍選択が難しくよくわからないこともあるようだが、「こんなことを聞いてもいいのか」とそれ以上に誰かに聞くこともなく、かといって割り切るでもなく、「自分だけが気にしているだけかな」となんとなくモヤモヤを抱えながら日々を過ごすことも多いようである。

☆乳幼児の発達の楽しさと大事さに対する理解不足

赤ちゃんへの言葉かけや触れ合いや遊びは、運動発達を促し、コミュニケーション力や非認知力を高める。子どもはできなかったことができるようになることを喜び、安心できる人から認められるとさらに意欲を高める。日々の成長を見るのは嬉しく、関わる意義をもっと感じてほしいと思うが、「何をすれば、〇〇ができるようになりますか？」「健診の項目を練習させないといけませんか？」といった質問からは、子どもに関わることの楽しさよりも訓練や目標達成を目指している感じを受ける。また、子どもで気になることも悩みとして深刻化せず、なんとなく日が過ぎて解決すると、育児の手ごたえは薄まる。安心して成長できる環境づくりや見守ることの重要性は強く認識されておらず、親としての自尊感情が以前より育ちに小さくなっている印象がある。

☆「就労+子育て」の大変さがイメージできていない

4月から母が就労し、子どもは保育所に入所する母子は多い。0～1歳児は当初母体からの免疫を受け、また感染の機会が少ないため、病気経験のない子が多い。子どもの病気に具体的なイメージがなく、保育所以外で休める環境を準備していない場合も多い。「病気すると聞くけど、本当ですか？」「休みは取れると思うけど…」「近くにおばあちゃんが居るけど、働いているのでどこまで頼れるかわからない」「在宅勤務の夫が見てくれると思うけど…」などの言葉からは、突然訪れる子どもの病気に対する備えは感じられない。乳幼児が病気になれば、不機嫌でぐずる・甘える・眠る時間帯が定まらず、すぐに起きてくる・寝かしつけに時間がかかる・こまめな水分補給など、健康な時の3倍以上の手間がかかる。さらに食事の工夫や洗濯物の増加など家事が増え、買い物もままならない状況に陥るため、付き添いが一人では孤軍奮闘せざるを得ないのが実情である。在宅勤務で仕事の片手間に子どもを見るのは難しい。

保育所生活は「子どもがにこにこ楽しく遊んで、何のストレスもない」と思っていた人もいた。集団生活は子ども同士のもめごとや好きなタイミングで甘えることができないなど、多少のストレスを伴う。健康であれば、ストレスは我慢やたくましさを培う良い刺激になり、プラス効果が得られる。しかし特に園生活に慣れるまでは、疲れや発散を家庭で出すことは十分想定される。その認識がなく、受け止める余裕がなければ、入所後の子育ては想定外の負担が多いのではないかと懸念される。

【子育て支援策の課題】

☆出産直後の支援

出産直後～新生児期は、多くの支援を必要とする時期である。出産後の母子の大半は医療機関である産科から家庭へと環境が激変し、母子に関わる人も助産師を中心とした医療専門職から家族へと変わる。家族内に子育て経験者がいてマンパワーに余裕があれば、これらの移行は特に問題なく行われるが、核家族化が進んだ現代では多くの家庭で厳しい状況にあると考えられる。我々が垣間見た限りでは、実家にも実質的に頼れない家庭は多いと推測されるが、実態調査に基づいて支援の対象と規模が検討されているのかは疑問である。

☆子育てや子育て支援に対する世間の理解不足

乳幼児期は人生の基盤を作る時期であり、日常生活から子どもは多くを学び、成長する。家庭生活が便利になり、日中に家族が居ない状況下で、子どもが見聞き体験して学ぶ材料は乏しくなっている。その中で、親が子どもと1対1で向き合っているのは、望ましいことではない。人との関わりの中で手間や時間をかけて子どもを育てる場や機会を作ることが、子育て支援では重要視されるべきだが、近年は子どもの預かりや親の負担軽減に焦点が当たっている。

☆政治家の関心の低さ 【箕面市市議会議員アンケート】（n=23）

1. 子育て支援に関心がありますか？ 2. 産後ケアに関心がありますか？



図 12. 議員アンケート結果

アンケートを見学者申込と同時にに行ったこともあるが、回収率は低く、子育て支援が未来の社会を創る重要な政策として認識されていることはないようである。

☆医師（産婦人科医・小児科医）の支援への姿勢

産科医は養育環境や養育力育成にはあまり関心がなく、小児科医は親に指導的な関わりをしがちで、支援の資源として十分機能していない。

☆最後は「親の問題」「親の努力」に帰する風潮

未知の環境におかれた未経験者をどのように支援するかという議論より、「今どきの親」にどのように対応するかといった議論の方が多い。

【当事業・当団体の課題】

☆うちの活動について

スタッフアンケート：難しい、困ったことはどのようなことか？

*お母さんの(本当の)気分がアンケートと違うかなと感じた時の対応(アンケートという事で、初めての人などまだ場所の雰囲気がわからない人は、お子さんと離れたいかの項目で、本当は離れたいけれど素直に[とても]にまるをすると育児放棄していると思われると感じてか[あまり]に印がついているのですが、帰り際に離れられてよかったというような事があったので聞き方も含めて難しいなと思いました

*会話が続かなかった時が困りました。

*距離感が難しいかなと思います。一度、うちの運営等根掘り葉掘り聞かれたことがあり、返事に困りました。スタッフ多いですね。他のところ(おひさまルーム)ではこんなにスタッフがいない、等おっしゃってました。”

*来てくれたお母さんと話すときの距離感に悩みます。あれこれ聞きすぎるのもどうかと思うし、かといって自分の話をあまりし過ぎるのもどうか。うちで出会ったお母さんたち同士が話しやすいような雰囲気作りがうまくできたらなーと思います。

*そっとしておいて欲しい参加者さんが来られたとき。(今までは出会っていませんが)

*週に一回なので、なかなか利用者さんのお名前と顔が一致しないこと…

*終わりのアンケートを忘れることがある(特に途中で帰られる方は急いでいるので)。

*助産師さんへの相談など、有料メニューへの移行の見極め。

*①どこからが有料プログラムとすれば良いのか？話のもって行き方等で難しい場合がある

②外国人の方が来た時に自分の語学力が無い為にうまく対応が出来なかったかなと思った

*有料メニューが難しいです。オープンスペースと場所と時間が同じで並行している有料メニューを切り分けておすすめることにまだ慣れません。

参加者との接し方や会話の広げ方などについては、研修やその都度話し合う必要がある。有料メニューに関しては、提示方法の検討を図る。

☆発信力

現行の発信方法の継続・拡大が中心でだが、SNS の利用に向けて具体的な策を今後検討すべきと考えている。

☆事業継続への資金の安定性

助成金で本事業を行っているが、今後に向けて安定的な資金確保が課題である。

☆社会問題解決への戦略不足

本事業で参加者には貢献できるが、社会のあり方が子育てに求められることと合致しないという課題は大きい。産後から子育て期の親子が安心して過ごせるように、社会の流れと一線を画する環境を地域コミュニティに創っていきたいが、具体策が課題である。

Ⅵ. 今後および外部に向けて

【今年度の成果物】

活動の中で、各自必要と考えられた資料を作成した。現時点ではプリントをファイルした段階のものも多く、今後冊子作成につなげたい。

☆助産師

- *子育て講座・指導・相談用、マニュアル
- *個別カルテと連絡用書式

☆小児科医

- *乳児の子育て質問集

☆スタッフ

- *赤ちゃん体操マニュアル・家庭用パンフレット
- *離乳食相談資料（栄養士対応用）

☆全体

- *運営の手引き

【発信】

この事業の広報については、下記の方法で取り組んできた。

☆市民・保護者

箕面市役所子ども部すこやか室/産婦人科からの案内・HP・口コミ

☆行政・議会

市議会議員への招待

☆市民活動・地域団体

公共施設のチラシ配架・回覧板・FM タッキーでの紹介

【周知手段の参加者アンケート結果】

Q.はんもっくのおうちはどこで知りましたか？ (図.13)

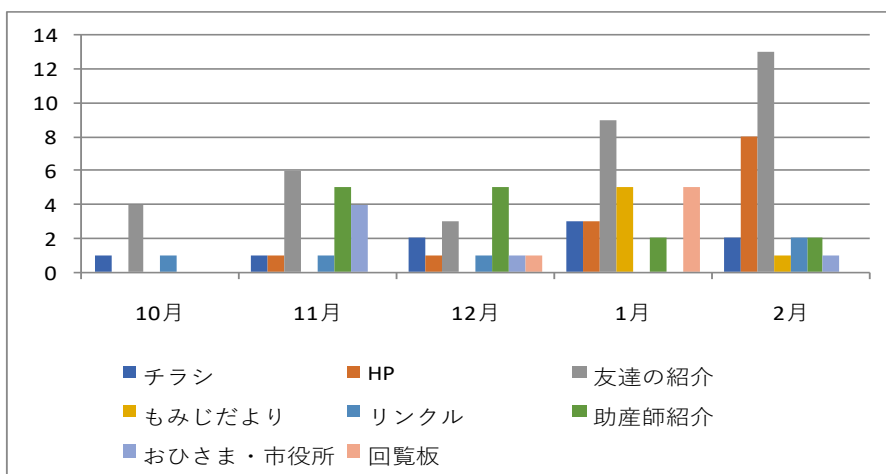


図 13. 周知手段の月別推移

1月以後は友達の紹介が多くなった。12月までは助産師からの紹介が多く、2月はHPが多かった。地元自治会の協力による回覧板も効果があった。

友達からの紹介は、参加者が良いと思って紹介したことを表しているのので、良い傾向と評価できる。一方、市の広報誌・回覧板・HPなどの媒体や助産師の紹介では友達がいない人の参加につながっている。

【今後の発信の方法】

- *現在の発信方法を継続
- *地元新築マンションへの案内
- *病院・医院への産科に案内配布
- *地域情報誌への情報提供
- *他の子育て支援団体との連携
- *SNSの活用

【今後の取組み】

☆うちの充実・発展

参加者の居心地の良さを常に検討し、研修で共有を図る

乳児期早期の親子の参加を促す工夫

参加者に、他の子育て支援の場でチラシ配布を依頼するなど、お互い様感覚を広げる

保育所選びや入園に向けての家庭の体制づくりを講座などで伝える

令和2年度に作成した資料を、他施設でも使えるように検討する

☆うちの事業の発信や展開

学会：6月の日本小児保健学術集会に、本事業の連携体制に関して演題提出中
専門職を対象にした勉強会開催を検討

- ・病気やケガの対応
- ・事故防止と動きの発達促進
- ・相談のあり方
- ・地域連携

☆助産師&小児科医連携を活用

*産科退院時の子育て力・環境の目標作成

産科を退院時、子育てに必要な力や家庭環境に関するチェック項目を作成
生後2週・1か月・4か月健診を目標に。

*産後ケア・相談のノウハウ集作成

より良い育児より、その人にできる育児を少しでも良い方向に促すために
子どもに良い効果を及ぼすこと・自分がやりたいことと、子どもへの影響などを説明できるようにする。

親の強みに注目する・できていないことに焦点化しない

☆小児科医→子育て資源として頼れる小児科医に

* 乳児の発達評価と関わり方作成

遠城寺式発達診断表を用いて発達を評価後、子どもへの関わり方を具体的に指導するための資料を作成

* 事故防止と運動発達促進

(一社)大阪小児科医会で作成した「守ることと経験すること」の冊子から、0～1歳児を対象にしたものを抜粋し、事故防止と運動発達促進の資料を作成する。

* 保育所保健

入所前に、お迎え・病気やケガの時の人の手配を具体的に考える資料を作成
保育所以外のバックアップ体制の情報提供モデルを共有

* 0～1歳児入園時の確認事項について、保育所対象の調査を検討

入所前にどのようなガイダンスがあるのか、小児科医から提供できる資料への要望等
(一社)大阪小児科医会で調査を依頼

☆スタッフ&小児科医→生活環境支援の情報提供

* 保育所以外の子育て応援手段リスト

訪問支援や病児対応ベビーシッターなど、利用可能な手段のリストを作成

* 在宅・就労：両者の利点と工夫の情報提供(子育てMAPも活用)

在宅家庭の良さや地域の子育て資源を紹介、節約や家事スキルアップ情報など
就労家庭の良さや時間を作る工夫、地域の公園などの紹介
どちらを選んでも、子育てを楽しめて誇りを持てるように原稿を検討する

☆政治・行政への働きかけ

* 市議会議員研修会 2021年5月以後

* 産後の母子の受け入れ体制の現状・産科での指導の評価と子育て不安感の調査を依頼

☆社会福祉協議会との連携

地域の困り事を世代間交流で解決できないか？

夕方の子育て家庭への中学生ベビーシッター

在宅家庭に高齢者家庭のゴミ出しを依頼できないか？

【行政・社会と連携した子育て支援への提言】

☆ハイリスクアプローチ (high risk approach)

コロナ禍で、ハイリスク家庭が増加している可能性が高い

- * 行政・母子保健の専門職の充実を
- * 子育て支援保育所（養育力の低い親を対象に）の位置づけを
乳児のケアを担う・親子関係を見守る・親の養育力向上
- * 一般保育所から課題の多い家庭について報告・支援を
- * 公立保育所や幼稚園を、ハイリスク家庭や要支援の子どもを受け皿に
心理職やソーシャルワーカーの配置・私立幼稚園や保育所への指導も

☆ポピュレーションアプローチ (population approach)

同時に行わないと、子ども全体に社会性の育ちが危うい

地域コミュニティの存在が重要。親と社会に対し重要性の理解と啓発を図る

- * 家庭的環境・拡大家族的支援
居場所を作る
はんもっくのおうち・こども食堂など、家的な場の必要性が高まっている
親同士のお互い様支援はピアカウンセリング効果が見込める
子育てサークル・小グループを作る・親同士をつなぐ・預かり合い
地域ボランティアによる世代間交流
ファミリーサポート・子育てサロンなど
- * 従来型地域団体への支援
活動維持・継続発展に向けて、負担軽減や活動充実のための具体的な支援を
PTAへの支援・親の会への支援・子ども会への支援など
- * 現存資源の情報提供
- * 新しい仕組みの開発
在宅親子のゆるやかな社会貢献を可能にする制度を検討
地域コミュニティに専門職が入る形：連携の取り方を検討

おわりに

現代の日本の社会は、簡単・便利・効率性やスピードを重視している。今の社会はより良い社会を目指して築きあげた結果であり、多くの人々は過去に比べ快適な生活を過ごしている。しかし、このような考え方に基づく生活環境が、子育てに合わないことはあまり知られていない。子どもの成長には10～20年の歳月が必要であり、人を信頼し助け合い自立した考え方を持つ大人を育てるには、人との関わりや様々な体験が必要である。生活が不便であれば、手や体を使い、失敗し、考えて工夫することが自然に獲得されただろう。便利とは手間をかけないことであり、学びの場が家庭にある子どもにとって、日常生活で動き考える作業は激減し、人と出会う機会も縮小した。今の社会の中に、子どもが育つ環境を創ることが必要で、手間をかけることや人と関わることを楽しめる工夫が求められている。

近年消費者意識が浸透し、できるだけコストや労力をかけずに良い物を入手したいという考え方が強くなった。ともすれば子育ても、できるだけ人手にかかるコストを削減し、簡単で手間を省いてできる方法で育てたいといった風潮を感じることもある。しかし、子育てや教育は消費行動ではなく、未来を育てる創造的行動である。人を育てる行為は、未来社会に向けて人も時間もお金も投資する価値があると広く認識されることを願っている。

2021年（令和3年）3月25日
NPO法人はんもっく
代表 福井聖子

NPO 法人はんもっくの他の活動

親子で遊ぼう tomtom(トントン) 外遊び



トントンジャンプ 体育館で遊ぼう



オンライントントン



箕面東高校触れ合い授業



子育てサークル支援



作成：2021年3月

編集：NPO法人 はんもっく

<https://minoh-hammock.jimdo.com>

問い合わせ：E-mail:hammock_minoh24@yahoo.co.jp

